

士別市の未来は？難しい話です

士別市はピーク時4万人を超えていた人口が、現在は1万5千人台まで減少、近年、減少数が4～5百人と加速度的に増えてきております。少子高齢化が進み、特に子供の数の減少が著しいと感じます。

また、地元商店街の衰退、地元企業の減少、厳しい市立病院経営、公共施設の統廃合、産科医院がない、若者の流出など、人口減少と地域経済の縮小が相互に影響し合う悪循環に入っているのでしょうか。

しかしながら、厳しい状況の一方で、士別市には他の地域にない強みがあると思います。一番に挙げるのが、大規模地震や津波などの自然災害リスクが少ないことです。また、犯罪も少なく比較的安全で静かな生活環境があります。

次に、居住に係る費用の安さがあります。中古住宅なら数百万円で買え、自分の望むようにリフォームすればそれほど高くなく満足感がある自分の一軒家を持つことができます。東京都の新築マンションの平均価格は1億3千万円とのことです。札幌市では5～6千万円程度です。自分は無理です。

また、豪雪地帯ながら、除排雪が素晴らしく冬でも道路環境が良いことです。これは札幌市や旭川市など大きい街では難しいことです。10センチ以上雪が積もると朝早く暗いうちから除雪ドーザではねてもらえます。とてもありがたいことです。

さらに農業基盤をみると広大な農地があり、圃場整備も進み農業関連産業は今後発展の余地が大きく、6次化など雇用を拡大する余地が、素人ながらあるように感じます。士別産のお米のブランド価値が上がっております。確かに士別産のお米は冷えても美味しくいただけます。

また、近隣町村の拠点機能として、病院、高校、行政機能があります。近年の士別翔雲高校野球部の活躍は、市民にとって誇りでありますし、わくわくします。他市町村からも部員が来ているようです。生徒数は減っていますが、士別翔雲高校、士別東高校の文武に渡る活躍は頼もしいものです。

現実的に目指すところは、人口増加ではなく、人口減少速度を抑えることだと思います。例えば、人口減少を年間300人程度に抑えることです。これができれば、大きな成果ではありませんか。

子育て世代の流出を減らす、医療体制を維持、空き家活用、移住者向け住宅支援など住宅対策もそうですし、建設関連業、農業関連企業、介護事業所、公共交通、運送業など既存の地元企業の存続支援を行うことも大切です。企業誘致など環境をみても簡単なものではないと思います。地元企業をいかに守るかです。

士別市が売るべきものは、生活環境ではないでしょうか。コロナ禍で自宅でもテレワークにより仕事ができる環境が増えました。安価な住宅、静かな環境、災害の少ない街、素晴らしい除排雪環境でリモートワーカーを呼び込む発信を積極的に行うなどどうでしょうか。空き店舗を安価で貸し、若い世代に小規模店舗を呼び込むなどどうでしょうか。

道の駅にはたくさんの方が訪れてますが、その周りの商業施設への集客効果波及はみえないように思います。中心街の魅力の再構築は少しずつでもやるべきではないでしょうか。

士別市が目指すべき姿は、「人口が減っても暮らしやすい街」ではありませんか。過疎地域に必要なのは大きな施策ではなく、若者が一人でも多く残る、子育て世代が1組でも定住する、小さな事業者が1社でも増える、といった小さな成功の積み重ねだと思います。

これには、市民、事業者、自治体、商工会議所、地域金融機関など地元有志が連携し少しずつでも進めることが必要だと思います。最大の課題はそれを成すためのリーダーシップと人材確保でしょう。何も

しなければ、思っている以上に過疎化のスピードが上がるような気がします。

実に難しい話ですみません。

以 上

令和8年6月 士別軌道 社長 井口裕史 68歳